

研究の概要

燕市立小中川小学校

I 主題

自分の考えをもち表現する子どもの育成
～ 国語科「物語文・説明文」の指導を通して～

II 主題設定の理由

(1) 学校教育目標とのかかわりから

当校は、「将来、地域社会に貢献できる人間の育成を目指し、知徳体のバランスのとれた教育を実現する」ことを学校の使命とし、「よく学び 心ゆたかに たくましく」という教育目標を掲げている。知育で目指す子どもの姿は「学び続ける子ども」である。「課題、目的、見通しなどを明確にして、自分なりの見方や考え方をもって追究し、他と練り合い、磨き合いながら学習を進め、結果として確かな基礎・基本を身に付けた子ども」を育てていく。そのために、実態を把握して課題の解決を図るとともに、「わかる」「できる」を実感できる授業づくりを行い、さらに、地域、保護者と連携を図りながら教育を実践することで、将来、地域社会に貢献できる人間の基礎を培うことができるものと考ええる。

平成23年度の重点目標は「自分の考えをもち表現する」であり、思考力・表現力の育成が重要課題となっている。

(2) 児童の実態から

当校の児童は、素直で親しみやすく、具体的な目標や課題に対しては根気よく取り組むことができる。しかし、自分の問題意識をもって取り組もうとする態度や、考えや根拠を的確に表現する力、他とのかかわりの中で考えを広めたり深めたりしていこうとする姿勢が弱い。県小教研の学習指導改善調査からは、思考力・表現力・活用力が育っていない状況が伺える。したがって、自分で考えをもち表現できる子どもを育てていくことが、学力向上のために重要であるといえる。

(3) 市・県・国の動向から

平成23年度から新学習指導要領が全面実施となり、思考力や判断力、表現力等をつけ「生きる力」の育成が求められている。また、新潟県では学力向上に重点が置かれ、燕市でも「学力向上」が最重要課題とされ、昨年度より各小中学校で「言葉の力の育成」に取り組んでいる。平成23年度の燕市の学習指導努力点として、「思考力・判断力・表現力の育成を図る授業改善や個に応じた指導により、確かな学力の向上に努める」が掲げられている。周囲の動向からも思考力・表現力の育成が必要である。

III 研究の経過

(1) 昨年度の取組について

平成22年度は、「自分の考えをもち表現する子どもの育成」の第1年次に当たり、国語の「読むこと」単元を中心に「書くこと・話すこと」をかかわらせながら、「自分の考えをもち、考えを伝える」、「他の人の考えを聞いて自分の考えを確かなものにする」ことのできる子どもを目指して取り組んだ。「自分の考えをもたせる工夫」「考えを伝え合う活動の工夫」「振り返り活動の工夫」の3点を研究内

容とし、授業実践を通して効果的な指導方法を探ってきた。その結果、考えをもつための効果的な手立てが明らかになるとともに、児童は、叙述から根拠を見つけて自分なりの考えをもち、その考えをペア発表やグループ発表等で相手に伝えることができるようになってきた。しかし、質問したり相手の話につなげて発言したりするなど、児童相互の伝え合う活動にはならず、また、考えを練り上げ、さらに深めていくまでにはいたらなかった。

そこで、今年度は、昨年同様に「考えをもつー伝え合うー振り返る」学習展開を基本とし、説明文・物語文単元の「読むこと」に「書くこと・話すこと」をかかわらせながら、「伝え合う活動」に重点を置いて取り組んでいく。

(2) 主題の意味するもの

「自分の考えをもち」・・・事実や事象をよく見たり、これまでの体験や既有知識と照らし合わせたりして思考し、自分の考えをしっかりともつことととらえる。国語では、文章の叙述を根拠に自分の考えをもつことを大事にしていく。

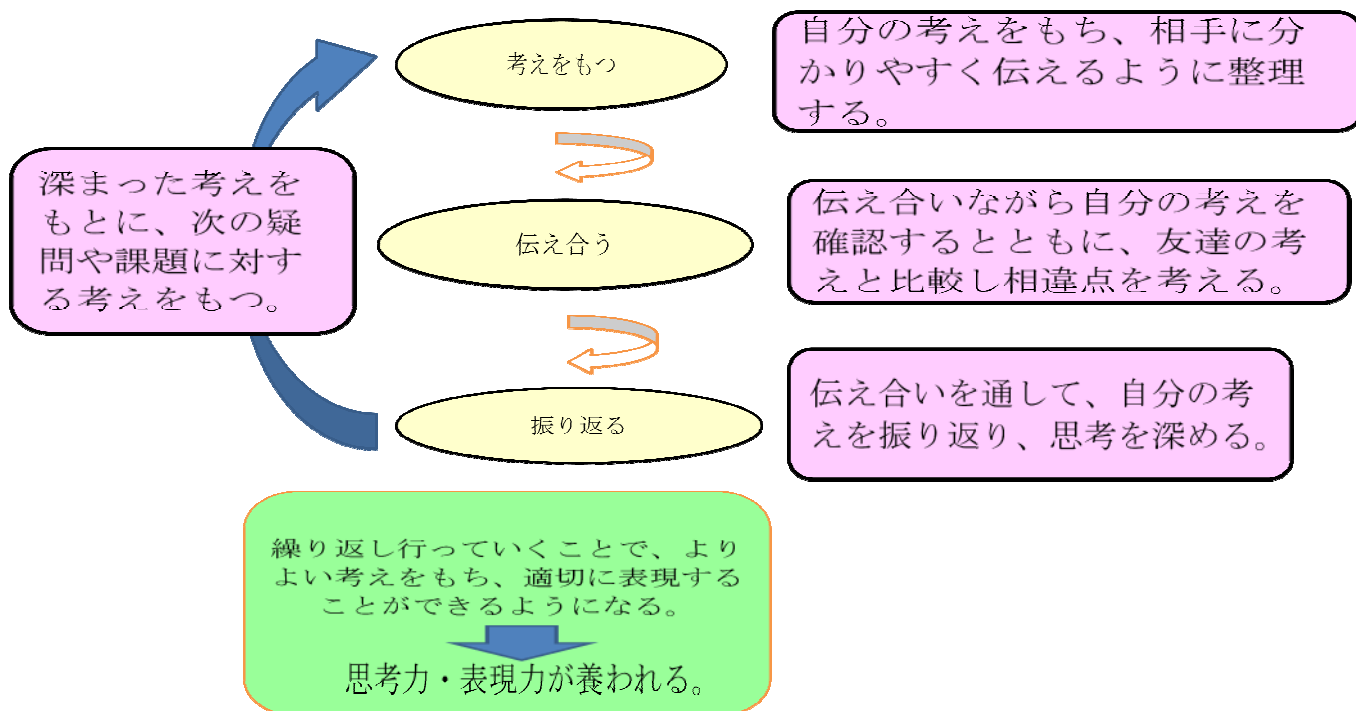
「表現する子ども」・・・相手や目的、意図に応じて、自分の考えを分かりやすく文章に書き表したり、相手に分かるように伝えたりする子どもととらえる。

さらに、他とかかわり、伝え合うことを通して、自分の考えを確かなものにししたり、広めたり深めたりしていく子どもを目指していく。

IV 研究の実際

(1) 研究仮説

国語の「読むこと」単元を中心に「書くこと・話すこと」をかかわらせながら「考えをもつー伝え合うー振り返る」学習展開を繰り返し行い、自分の考えを表現していくことで、思考力・表現力を養い、読みを確かにする子どもの育成が図られる。



(2) 研究内容

- 国語科「物語文・説明文」単元で、説明文、物語文単元の「読むこと」に「書くこと・話すこと」をかかわらせながら、「伝え合う活動」に重点を置いて取り組む。

◎「考えをもつー伝え合うー振り返る」学習展開のための取組

- ① 考えをもたせる工夫 [文章をもとにした根拠や理由のある考え]
 - 課題・発問の工夫
 - ・ねらいの明確化
 - ・主題や要旨に迫る、意欲を喚起する、叙述をもとに検討できる、等
 - 方法の工夫
 - ・ 既有経験・既習事項の想起と活用、観点、具体物、板書、掲示物、チェック読み、時間の確保、ノートやワークシートの工夫、等
- ② 伝え合う活動の工夫 [考えを広め深めるための伝え合い活動]
 - 目的の明確化(何のために、何をどうするか)
 - 発問の工夫
 - ・ (意図の明確化、多様な考えが出る発問、考えをつなげ深め練り上げる発問)
 - 方法の工夫(形態、進め方、まとめ方、発言の仕方、板書 等)
- ③ 振り返り活動の工夫 [自分の考えを確かにする振り返り活動]
 - 書かせ方の工夫(ノート、ワークシート、日記、手紙、等)
 - 観点の工夫
 - ・ 課題に対してのまとめ、自分の考えの見直し、自分や友だちの考えのよさ
 - ・ 学習を通して分かったこと(はっきりしたこと)、次に学習したいこと、等

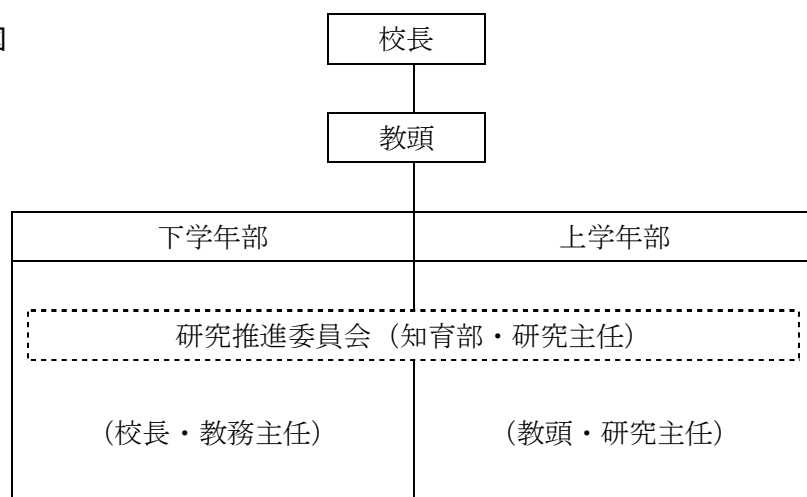
V 研究を支える取組

- ① 「わかる・できる」を実感する授業、学ぶ楽しさや成就感・達成感のある授業
- ② 表現活動の工夫(音読・朗読・暗唱、毎日のスピーチ、スピーチ朝会、書く活動 等)
- ③ 学力向上の取組：基礎的基本的な知識・技能の習得
 - ・ (反復練習、学年テスト、全校計算・漢字テスト、燕長善タイム、県ウェブシステム等)
- ④ 学習習慣の確立
 - 学習規律・習慣…「学びのこなかがわ」「学習のきまり」
「学習ガイド(話す・聞くスキル)」
 - 家庭学習の充実…「学年×10分の家庭学習(1年生は20分)」, 「家庭学習ガイド」, 強調週間の実施 等
- ⑤ 学び合い認め合う学級づくり
 - ・ (良さを認める場・賞賛の場、かかわりが広がる活動 等)

VI その他

- 共通理解を図るため、学年会で授業や学力向上について話題にする。
- 指導案やワークシート等の資料、授業後の成果と課題は、研修のデータファイルに保存する。
- 家庭との連携を図る。
 - ・ 「家庭学習ガイド」の作成・配布(知育部)
 - ・ 学年便り…家庭学習について(4月)、子どもの学習状況について(適宜)
 - ・ 学年懇談…家庭学習について、子どもの学習状況について
 - ・ 学力向上便り…研推(学期1回程度)
- 授業以外の研修会は担当する部が中心となって実施する(体育研修、徳育研修、同和研修等)。

○ 研究組織図



Ⅶ 実践例 (別掲)

- (1) 3年国語「ちいちゃんのかげおくり」
- (2) 6年国語「『鳥獣戯画』を読む」

Ⅷ 成果と課題

<成果>

- (1) 考えをもたせる工夫

○視覚化

- ・教材文を拡大掲示する，教材文に色別に線を引く，丸をつける，写真や挿絵を活用するなど視覚化することで，場面把握や内容の理解が容易になった。課題について自分の考えをもったり整理したりすることにも有効であった。

○ペーパーサートや動作化

- ・教材文の内容についてペーパーサートで表したり動作化したりして，内容を体感することで，正確な読み取りができるようになった。

- (2) 伝え合う活動の工夫

○ペア活動やグループ活動での発表や全体発表の場の設定

- ・必ず一人ひとりが考えを発表するので，自分の考えを整理することができ，自分の考えに自信をもつことができた。
- ・友だちの意見と自分の意見を比べながら聞くことで，考えを広めたり深めたりするきっかけになった。

○話型の活用

- ・友だちの意見とつなげる発表ができるように話型を提示した。話型を活用することで，友だちの考えとかかわらせながら自分の考えを発表できるようになった。

- (3) 振り返る活動の工夫

○視点の明確化

- ・何をどう振り返ればいいのか指示することによって，振り返りの視点を明確にすることができた。

- ・内容面では、学習して分かったことや、課題についてもう一度考えさせることで、自分の考えの広がりや深まりを実感させることができた。
- ・態度面では、評価カードなどを活用した。単元を通じて行っていくことで、話の聞き方や発表の仕方など毎時間意識しながら学習することができた。

<課題>

(1) 考えをもたせるために

- ・伝えるためには、伝えるべき内容と伝えたいという強い思いが必要である。自分ならではの感想や考えがもてたとき、児童は伝えたいという思いをもつので、考えさせる内容や課題の吟味が必要である。
- ・多様な考えが出ないと伝え合う場が盛り上がらない。そこで、叙述をもとに多様な考えが出る課題を工夫していく。

(2) 伝え合う活動のために

- ・友だちの意見と比べながら聞くことができるようになってきた。同じ場合には「同じです。」違う場合には「～さんと違って」など、友だちの意見とかかわらせて発表できるようになってきた。しかし、自分と意見が違う場合にその意見に興味をもつことが少ない。「なぜそう思ったのか」など友だちの意見に質問したり、その意見について自分の考えを述べたりすることが、伝え合うことにつながる。今後は、自分と違う意見について、もっと興味を示すような活動や手立てを工夫していく必要がある。

(3) 振り返りの活動

- ・伝え合った情報を吟味し、整理する力が必要であり、毎時間必ず行っていくことで力がついてくる。振り返りの時間を確保していくことが何より重要である。

第6学年2組 国語科学習指導案

授業者 教諭 加藤純司

1 単元名 ものの見方を広げよう 『鳥獣戯画』を読む』

2 単元の目標

○事実と感想・意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかみ、そこから考えたことを発表し合うことで自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

3 単元の評価規準

- ・絵巻物などに興味をもち、文章を読もうとする。【関心・意欲・態度】
- ・筆者がどのようなことを根拠として考えを述べているのかをとらえている。【読む】
- ・文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。【読む】
- ・文末表現や助詞の使い方など語句に着目して読み、語句と語句との関係を理解している。【言語活動】

4 指導の構想

(1) 児童の実態(男子16名、女子16名、合計32名)

学習改善調査やNRTの結果から、「話すこと・聞くこと」と「言語事項」は平均とほぼ同等であるが、「書くこと」と「読むこと」については、平均を下回っているという現状が見られる。特に、目的や意図に応じた書き方の工夫や資料、心情、要旨などの読み取りの力が不十分である。

そこで、「書くこと」の力を向上させるために、新聞記事の投書について意見文を書く「週末作文」を家庭学習で継続的に取り組んできた。それにより、「書くこと」については、量を書くことに対する抵抗は少なくなってきた。しかし、内容面ではまだ不十分な点があるので、条件をつけるなど今後さらに指導が必要である。また、「読むこと」の力の向上のために、毎時間音読活動を行い、教材文についてのミニ問題を出す活動を継続して行ってきた。それにより、単なる音読にならないよう理解しながら読もうとする姿も見られる。ただ、図や表と文章と関連付けて読み取ることがまだ苦手であるため、資料を見ながら読み進める活動を、今後重点的に行っていきたい。

説明文の学習については、5年生で文章全体を意味段落に分けたり、段落のつながりをとらえたりする活動を行ってきた。また、「問いの文」や「答えの文」を見つけたり、書き直したりする練習も行い、説明文の構成や読み取りの「型」は身に付いてきている。

今年度、1学期「生き物はつながりの中に(説明文)」では、本文をもとに自分たちで問題提起文を分かりやすく書き直したり、筆者の考えが書かれている段落を見つけ、そこからキーワードを選択してまとめる活動も行ってきた。また、「カレーライス(物語文)」では、主人公ひろしの心情を考え、グループで検討しながら読み進めていく活動を行い、他の人とかかわり合いながら読みの力の向上に努めてきた。話し合い、の方法や話す聞くスキルも身に付いてきている。

(2) 単元について

本教材は、日本の歴史的絵画作品で国宝になっている「鳥獣戯画」をアニメーション映画監督の筆者が独

自の見方から作品のよさを伝えている説明的文章である。鳥獣戯画は、「漫画の祖」や「アニメの祖」と呼ばれていることをより分かりやすく伝えるために、本来は1枚の絵の絵巻物を2ページに分けて掲載している。これは、ページをめくってみることで、作品の物語性や時間の経過などを示すためである。そのほかに、蛙や兎の動きや表情などにも着目し、国宝であるこの絵画を、「人類の宝である」という表現で締めくくっている。

また、鳥獣戯画のよさを伝える方法として、本教材の表現方法にも注目できる。「はっけよい、のこった」「どうだい」などの書き出し方や「かえし技」「トノサマガエル」などの体言止め、「めくってごらん」「なんだろう」といった読者に対する語りかけなどさまざまな書き方の工夫がされており、児童は親しみをもって読むことができる。また、鳥獣戯画を評価する表現として「おもしろい」「たいしたものだ」「実にすばらしい」など、多様な言葉を使い、しかも高まりがある。

このように、構成や書き方の工夫などを通して、筆者の見方や考え方にふれることにより、自分の見方や考え方を広げられるというのが本教材である。

本単元では、筆者の見方や感じ方から自分のものの見方や感じ方を広げることをねらう。そのために、以下の点について教材文を読んでいく。

- ① 鳥獣戯画を初めて見た感想を自分なりに書く。(400字程度)
- ② 筆者の思いを知るところから始める。
- ③ 筆者の思いを支える記述を本文と図版とを対応させながらとらえる。
- ④ 筆者は、絵のどの部分に着目をし、どのように評価しているのかをとらえる。
- ⑤ 書き出しや文末などの表現方法や文章の構成をとらえる。

これらの観点をもとに文章を読み進め、筆者の見方や感じ方をとらえさせる。また、自分の見方や感じ方と比べ、その違いに気づかせていきたい。それが、学習の深まりにつながっていくと考える。

(3) 考えをもち表現する力をつけるための手立て

① 考えをもたせる工夫

ア 重要ポイントを分かりやすくするために教科書にラインを引く。

- ・書き出しや文末など、工夫されている表現を見つける。
- ・絵のどの部分について述べているのかが分かる部分を見つける。
- ・絵について評価をしている部分を見つける。

イ よりはっきりと文章を理解させるために視覚教材を活用する。

- ・教材文に使われている2枚の絵を拡大して提示する。
- ・教材文を拡大して提示する。

② 考えを伝え合う活動の工夫

- ・自分の考えを確かにしたり、修正したりできるよう、ペア発表またはグループ発表を取り入れる。
- ・話し合い、を効率的に進めるために、自分の考えを書きこめる付箋を活用する。
- ・グループの考えをまとめたり、発表したりするために、ホワイトボードを活用する。

③ 振り返る活動の工夫

- ・毎時間ノートに学習の振り返りをし、自分の考えを蓄積しておく。
- ・振り返りの観点を与える。

5 指導計画（全11時間 本時7/11）

次	時間	学習課題 ・ 学習活動	評価規準
第1次	1	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥獣戯画を見て、絵から読み取ったこと、感じたことをノートにまとめる。 ・ノートにまとめたことを発表し合う。 	鳥獣戯画の絵から初発の感想をもって、発表し合うことで、課題意識をもつ。
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・題名読みから、どんな内容かを考える。 	
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・全文を通読し、文章の内容を知る。 ・学習計画をたてる。 	
第2次	4	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の段落構成を確認する。 	叙述をもとに読み、筆者のものの見方や感じ方を理解する。
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥獣戯画を「人類の宝」と表現する筆者の考えを知る。 ＊なぜ筆者は、鳥獣戯画が「人類の宝」と言えると考えているのか？ 	
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・1枚目の絵（P133）について、筆者の見方や感じ方を発表する。 	
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・2枚目の絵（P135）について、筆者の見方や感じ方を発表する。 	
	8	<ul style="list-style-type: none"> ・絵巻物の特色について知る。 	
	9	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の文化の特色について知る。 	
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥獣戯画が「人類の宝」であるという筆者の思いをもとに、自分は「人類の宝」であるという思いに共感できるか、できないかを考える。 	
第3次	11	<ul style="list-style-type: none"> ・初発の感想を読み直し、もののとらえかたの深まりに気づき、学習のまとめを書く。 	初発の感想と終末段階での自分のものの見方の広がり気づいている。

6 本時の展開

（1）本時の目標

鳥獣戯画を「人類の宝」と表現している筆者の見方や感じ方を、絵と本文の叙述を照らし合わせながら見つけ、理解することができる。

(2) 展開

	○学習活動 T 教師の働きかけ C 児童の反応	・手立て ◆評価 (評価方法)
考えをも 15	<p>○前時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆運びや正確な描き方について ・漫画の祖を言われるおもしろさ <p>○学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>2 枚目の絵から、筆者が「人類の宝」とまで言う鳥獣戯画のすばらしさを 3 つ見つけよう。</p> </div> <p>○教科書にラインを引き、自分の考えをノートに書く。</p> <p>T: P135 の絵について述べているのはどこかな。</p> <p>C: ④～⑥に書いてある。</p>	<p>・評価している部分や評価している言葉を探す。</p>
伝え合う 25	<p>○自分の考えをグループで発表し、話し合う。</p> <p>C: 漫画だけでなく、アニメの祖でもあるということだと思います。</p> <p>C: まるで漫画の吹き出しと同じようなことをやっていたということだと思います。</p> <p>C: 勢いがあるって、絵が止まっていないということだと思います。</p> <p>C: ほんのちょっとした筆さばきで見事に表現していることだと思います。</p> <p>○全体で発表し、話し合う。</p> <p>C: ○○さんと同じで (似ていて) ~だと思います。</p> <p>C: □□の意見は、「アニメの祖」でまとめられると思います。</p> <p>C: △△は、吹き出しでまとめられると思います。</p> <p>○全体で確認をする。</p> <p>T: みんなの意見をまとめてみると、3つのまとまりになりますね。</p> <p>T: このまとまりはどんなまとまりにできそうですか?</p> <p>C: 筆さばきだと思います。</p> <p>T: 筆者が「人類の宝」だと言っているその理由がこれで分かりましたね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活班 (4人) で行う。 ・司会は輪番制とする。 ・絵と本文を対応させて発表する。 ・話す聞くスキルを活用する。 ◆自分の考えを発言している。(行動観察) <ul style="list-style-type: none"> ・自由発言、意図的指名を適宜行っていく。 ・児童の発言を板書していく。 ◆絵と本文の対応を分かりやすく説明している。(行動観察)
振り返る 5	<p>○筆者が「人類の宝」と言っているその根拠は何かということについて自分の考えをまとめる。</p>	<p>◆自分の考えを書いている。(ノート)</p>

(3) 評価基準

A 基準: 筆者の見方や感じ方が分かり、3つにまとめて書いている。

B 基準: 筆者の見方や感じ方を分かり、書いている。

7 成果と課題

(1) 考えをもたせる工夫について

- 重要ポイントを分かりやすくするために教科書にラインを引く。
- よりはっきりと文章を理解させるために視覚教材を活用する。

○教材文，絵を掲示しておくことで前時の振り返りが容易になり，学習のつながりがあった。

○拡大した「鳥獣戯画」はインパクトがあり，スクリーンから降ろす方法もよかった。文章を理解するのに役立っていた。

○学習課題の，「3つのすばらしさを見つける」は，ポイントをしばることで子どもが見つけやすい課題となった。

◇ラインを引くことは手段であって，工夫ではない。ラインが引けない，分からない子への手立ては何だったのか。



(2) 伝え合う活動の工夫について

□ペア形式発表について

○立ち話での情報交換は，早く終わった子への対応としてよい。(退屈しない，お互いの相違点を確認する)

○課題が終わった人から，お互いに確認するやり方は「自然な形」での伝え合いになっていた。



□グループ発表について

○自分の考えを赤，友達の考えを青に変えてラインを引かせることは考えを伝えるのに有効であった。

○主体的に話し合いに参加する雰囲気を感じられた。

○グループの話し合いで司会の輪番制やスキルを活用してやっていくことで伝え合う力が育っていく。



□全体での話し合い，について

○発表者の考えに対して自分はどうかという意思表示があった。

○友だちの話を聞こうとする態度が身に付いている。反応しながら手を挙げるというスキルもできている。

◇練り上げの時間があると学習の深まりがあったのではないかと。(「気合い」と「ふき出し」でどちらがよいのか，という場面)

◇発表だけで終わり、根拠などを説明し合う部分がなかった。

◇「伝え合う」というより線を引いた所を発表するだけで終わっていた。「伝え合う」「話し合う」ための視点があるといい。

(3) 振り返りの活動の工夫

○書くことに抵抗がなく、すらすら書いていてすばらしい。

◇授業で出てきた意見をどのように振り返っていたのか？

(4) 単元を通した児童の変容と課題

今回の研究授業を通して、子どもたちが向上した点がある。
以下の通りである。

- ① 話の流れを読む
- ② 自分を流れに乗せる
- ③ 話をつなぐ

ただ、まだまだ形式的な発言であり、発展途上である。読み取ったことから自分なりの解釈をし、他者の考えも合わせながら自分の考えが発言できるという姿を常に追い求めながら、今後も授業改善に取り組んでいきたい。

<指導者より>

○単元の始めに行った、『『人類の宝』と言っている筆者の考えに賛成か？反対か？』という課題は、大きな意義がある。

2つの立場において、自分の考えをもつことはPISA調査でも求められているもので、今日的意義が大きい。

○結論から読み進める学習は妥当性がある。筑波大付属の白石先生が提唱している「逆思考の読み」というものがある。「物語文では、登場人物の気持ちの変容をつかむためには、逆に読むことでより効果的になる。これは、説明文でも通用する。」と言われている。

◇友達と自分の考えを比べ、考え直し、発表する力を今後は育てていく必要がある。

◇教科書から見つけた文が発言の全てとならず、自分なりの読み、解釈をつなげ、まとめや発表する力がつくように指導をしていけばよい。



第3学年1組 国語科学習指導案

授業者 鶴巻 樹里

1 単元名 場面の様子を想像しながら読もう「ちいちゃんのかげおくり」

2 単元の目標

○人物の気持ちや場面の移り変わりを叙述に即して読み、考えを伝え合うことを通して、自分の読みを深めたり広げたりすることができる。

3 単元の評価規準

○人物の気持ちや場面の移り変わりについて、想像したことを進んで書いたり、話し合ったりしようとしている。

【関心・意欲・態度】

○読みの根拠となる叙述を明らかにして自分の考えを話したり、互いの考えの共通点や相違点を考えながら聞いたりしている。【話す・聞く】

○自分の考えが明確になるように、理由や事例を挙げながら文章を構成している。【書く】

○考えを伝え合うことを通して、自分の読みを深めたり広げたりすることができる。【読む】

4 指導の構想

(1) 児童の実態（男子14名、女子16名、合計30名）

本学級の児童は、明るく何事にも一生懸命で、読み聞かせや読書を好み、物語の内容に没頭し楽しむことのできる子どもたちである。学習に向かう姿勢は全体的に前向きだが、個人差が大きく、集中力の持続に配慮を要する児童や、一斉学習の際に個別支援が必要な児童が数名いる。全員が学習に進んで参加し、学びの楽しさを実感できるような授業となるように、発問や指名の仕方、小グループでの話し合いの場の設定、ノート指導などを工夫している。

4月の物語単元「きつつきの商売」では、会話文や擬音語の音読の仕方をグループで話し合った。情景や心情を正しく読み取らないと音読の表現に生かすことができないことを実感した。

6月の物語単元「海をかつとばせ」では、主人公の心情の移り変わりをグループで協力して読み進めていった。自分の考えを付箋に書き、その根拠となる文にサイドラインを引く活動を繰り返し行った。グループでの話し合いでは、付箋を活用して同じ考え違う考えをはっきりさせ話し合うことができた。友だちに伝える際に、根拠をもって話すことが必然的に求められ、本文を根拠にして自分の考えを確かめ、自信をもって伝えることができた。

しかしながら、根拠と考えの妥当性がない児童も多い。物語をイメージだけで捉え、そこから抜け出せず、設問に対して正しく答えられない様子もまだ見られる。本文をもとに、物語を読み深めていく活動を継続して行っていく必要がある。

(2) 単元について

「ちいちゃんのかげおくり」は、児童が初めて出会う戦争を扱った物語である。幼い子どもが大切な家族を失い、やがては自分の命までも失ってしまうという話は、とても悲しく子どもたちの胸に戦争の悲惨さを深く印象づける。

この物語はそれぞれの場面を対比して読むことにより、心情や状況を理解することができる。「家族でかげおくりをした空と空襲がおこった空」「家族でしかげおくりと、一人でのかげおくり」「ちいちゃんと今（現代）の子ども」などを対比させることを通して、どんな状況であっても、家族への強い思いや再会への願いをもち続けたちいちゃんのお気持ちを理解させたい。

また、幼い子どもが主人公であることや身近な遊びが題材になっていることから、感情移入しやすく音読するときにも十分に気持ちを込めて読むことのできる教材である。単元の終末に音読発表会を設定することによって、音読による表現をめざして、主体的に読み深めていく姿を期待する。さらに、発表会に家族を呼ぶことで「自分が感じた思いを伝えたい」という相手意識をもって単元を進めていけるようにする。

この物語を学ぶことにより、いつの時代やどんな状況下にあっても家族を思う心は強く深いこと、戦争によってたくさんの命やものが奪われたことを考えさせ、児童に家族の大切さや平和を願う心を育てたい。

(3) 考えをもち表現する力をつけるための手立て

① 自分の考えをもたせる工夫

ア 付箋とサイドラインの活用

学習課題に対しての自分の考えを付箋に書く活動を取り入れる。付箋を使うことによって、考えを短くまとめて書く力や、一つの考えに満足せず様々な角度から文章を読む視点を身につけることができると考える。付箋に書いた時には必ずその考えの根拠となる本文にサイドラインを引く活動を取り入れることで、叙述に即した読みができると考える。

② 考えを伝え合う活動の工夫

イ 付箋を活用した「グループ会議」

小グループでの話し合いを設定し、自分の考えを話し、友だちの考えを聞き、自分の読みを広げる場とする。付箋を使うことにより、自分の立場がはっきりして考えを説明しやすくなる。また、グループで付箋をしながら話し合うことで、同じ考えと違う考えがはっきり区別できるようにする。

ウ 全体での話し合いでの「コップサイン」

3色のコップを重ねて机に置き、Aの考えのときは赤色、Bの考えのときは青色、悩んでいるときは黄色と、自分の立場をはっきりさせる。それにより、友だちの考えとの相違に気付かせ、活発な伝え合い活動を促していく。

③ 振り返る活動の工夫

エ 書く活動を通してのふりかえり

毎時の最後に「分かったこと・考えたこと」をノートに書きためていき、自分の学習の跡を残していく。自分の考えの広がりや深まりに気づけるようにしていく。その際、どんなことを書くのか観点をはっきりと示すようにする。

5 指導計画(全12時間 本時7/12)

次	時	○学習課題・学習活動	評価規準
1	1	ちいちゃんの気持ちを読み取って、音読発表会をしよう。	初発の感想から学習課題を設定し、課題意識をもつ。
	2	・全文を読んで、心に残った場面を話し合う。学習課題を設定する。 ・知りたいことや考えたいことを話し合い、学習計画をたてる。	
2	3	工夫した音読発表にするために、ちいちゃんの気持ちを読み取ろう。	
	4	○それぞれの登場人物の気持ちを考えて会話文を工夫して読もう。(1場面) ・「○○の(な)かげおくり」と名前をつける活動を通して、情景を読み取り、会話文の音読の仕方を工夫する。	

【本時】	5	○ひとりぼっちになったちいちゃんの気持ちを考えよう。(2場面) ・「〇〇の(な)空」と名前をつける活動を通して、空襲の様子を読み取り、主人公の怖かった気持ちを考える。	叙述をもとに、主人公の心情や状況を読み取り、自分なりの音読表現に生かしている。
	6	○どんな気持ちで「おうちのところ」と言ったのか考えよう。(3場面) ・空襲の悲惨な様子を読み取り、主人公の寂しい気持ちを考える。	
	7	○「お父ちゃん」「お母ちゃん、お兄ちゃん。」はどう読めばいいのか考えよう。(4場面) ・1場面のかげおくりと比較しながら、主人公の心情を考える。	
	8	○「きらきら」笑ったちいちゃんと、今の子どもたちを比べよう。(5場面) ・5場面の価値を考え、作者の伝えたかったメッセージを読み取る。	
	9	○ちいちゃんに手紙を書こう。 ・主人公に手紙を書くことで、物語全体を振り返る。	
3	10	ちいちゃんの気持ちが伝わるように、音読発表会をしよう。 ・今まで練習してきたことをもとに、めあてを確認して練習をする。	読みを生かした音読発表をし、単元を通しての感想をまとめていく。
11	○グループごとに練習して、クラスでリハーサルをしよう。 ・他のグループからのアドバイスをもとによりよい音読とする。		
12	○発表会をして、感想をまとめよう。 ・見ていただいた方から感想をもらい、それをもとに自分の表現に対しての感想をまとめる。		

6 本時の展開

(1) 本時の目標

4場面のかげおくりでの様子を想像し、考えを伝え合うことを通して、主人公の気持ちと状況を叙述に即して読み取ることができる。

(2) 展開 別紙

(3) 評価基準

A 基準…叙述に即して主人公の気持ちと状況を読み取っている。

B 基準…叙述に即して主人公の心情を読み取っている。

(2) 展開 7/12

	○学習活動 T 教師の働きかけ C 予想される子どもの反応	・手立て ◆評価(評価方法)
考えをもつ(10)	○本文を音読し、前時に出た疑問をふりかえる。 C ちいちゃんはどうなふうで、「お父ちゃん」「お母ちゃん、お兄ちゃん。」と呼んだのかな? C ちいちゃんの気持ちや様子を考えると分かるかな。	・前時までの学習の軌跡を掲示して、既習内容をふりかえられるようにする。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> かげおくりしたちいちゃんの気持ちや様子をを考えて音読しよう </div> C かげおくりは3回目だよ。1場面と比べるとよく分かるかな。 ○付箋に「〇〇の(な)かげおくり」とかげおくりの名前をつけ、根拠となる文にサイドラインをひく。 T 1場面と比べるために、かげおくりの名前をつけましょう。	・本文を掲示し、本文をもとに登場人物の気持ちと状況を把握していく。 ◆本文を根拠にして自分の考えを付箋に書いている。(付箋)

振り返る(5) グループ	<p>○グループ会議(班での話し合い)をし、自分の考えを確かめる。</p> <p><small>プラスの考え</small></p> <p>C 「嬉しいかげおくり」家族に会いたかったから嬉しいはずだよ。</p> <p>C 「喜んだかげおくり」ちいちゃんは、家族に会いたくて一人でもがんばって来たから、会えたときは本当に喜んだと思うよ。</p> <p><small>マイナスの考え</small></p> <p>C 「ふらふらする」「暑いような寒いような気がしました」と書いてあるから、「くるしいかげおくり」</p> <p>C ちいちゃんの願いは叶わなかったから「悲しいかげおくり」</p> <p>○全体で話し合い、自分の考えを深めたり広げたりする。</p> <p>C どの考えも納得だけど、私のコップサインは赤かな？青かな？</p> <p>C 「嬉しいかげおくり」って、1場面も同じだよ。</p> <p>T 1場面のかげおくりと比べてみましょう。</p> <p>C 1場面の方が嬉しかったと思う。だってちいちゃんは、もど通りの生活をしたかったんだよ。4場面はもど通りになってないよ。</p> <p>C 1場面の方が幸せそうだけど、きらきら笑ったって書いてあるから、ちいちゃんは嬉しかったんだと思うよ。</p> <p>C 気持ちは赤だけど、様子は青なんじゃないかな。</p> <p>C 嬉しかったと思うけど、死んでしまうことに気付いていないからちいちゃん、かわいそうだな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小中川学習ガイド・話す聞くスキルを活用して、話し合いを進める。 ・友だちとの考えの相違点ができるように、付箋を活用する。 ・全体での話し合いでは、自分の立場をはっきりさせて、互いの考えを伝え合うために、「コップサイン」を活用する。 <p>（プラスの考え）のかげおくり…赤 （マイナスの考え）のかげおくり…青 悩み中・その他 …黄</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短冊を用意し、児童の考えを黒板に掲示する。プラス方向の考え（嬉しいなど）とマイナス方向の考え（苦しいなど）に分けて掲示していく。 ・1場面に出た考えも色違いの短冊に書いておき、黒板で対比できるようにする。 <p>◆自分の考えの根拠を明らかにして発表している。（観察）</p>
振り返る(10) 振り返る	<p>○自分がどう読むかをはっきりさせ、その理由をノートに書く。</p> <p>C ちいちゃんはすごく家族と一緒にいたくてかげが見えたときは嬉しかったと思う。でも体はふらふらだったから弱い声で心をこめて読みたいです。</p> <p>○ノートに書いたことを発表し、自分が考えた読み方で4場面の音読をする。</p> <p>C ○○さんの考えと同じだ。元気いっぱいにもうと読んでいたけど、ちいちゃんの様子を考えると元気ではないことが分かったよ。</p> <p>C 最初より、気持ちを込めて音読することができてよかった。</p> <p>C ちいちゃんの気持ちが前より分かった。ちいちゃんのことを考えるとすごくかわいそうになったよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・書くことに戸惑っている児童には、本文や板書を読み返すよう声をかける。 ・全員がそれぞれで音読練習した後、1、2名が代表で音読する。 ・導入時の音読よりもよかったところを具体的に賞賛する。 <p>◆主人公の心情や状況をふまえて叙述に即したの読み方を考え、記述している。（ノート）</p>

7 授業の成果と課題

(1) 自分の考えをもたせる工夫について

□叙述に即した読みを行うために付箋とアンダーラインを活用する。

○本文の根拠となる部分にサイドラインを引く活動を繰り返して行ったことで、叙述にそって自分の考えをもてるようになった。

○付箋を活用したことで、1つの考えでは満足せず、様々な視点から課題を考えようとする姿が見られ、考えの幅が広がった。

○友だちの考えで納得したものを、色違いの付箋に書くことで、考えの広がりが分かってよかった。

○紙コップを活用した「コップサイン」は、全員が自分の立場をはっきりさせて考えをもつために有効であった。



○「音読発表会」という単元を貫く目標があるので、全員が意欲的に自分の考えをもつことができた。

(2) 考えを伝え合う活動の工夫について

□自分の立場をはっきりさせるために付箋を活用した「グループ会議」を設定する。

□友だちの考えとの相違に気づき、活発な伝え合い活動ができるように「コップサイン」を活用する。

○「～なかげおくり」というネーミング作業を取り入れることによって、話し合いの焦点が絞られてよかった。

ま

た、1場面との比較もしやすくなったので有効であった。

○付箋をもとにグループで話し合いをしたことで、自分と同じ考え・違う考えを意識して話し合いを進めることができた。また、「ここまで是一緒だけど、理由が違うよ。わたしはね…」というように話し合いによって考えを深める姿も見られた。



◇「うれしいかげおくり（心情面）」「ふらふらするかげおくり（状況面）」の2つに分けて対比して話し合ったが、子どもはその違いを捉えるのに時間がかかった。「うれしいかげおくり（ちいちゃんの見線）」「ふらふらするかげおくり（読者の見線）」で整理した方が対比しやすかった。子どもの反応を予想して発問をさらに吟味することが必要である。

◇1場面との対比にもっと時間をかけることで、主人公の置かれている状況をより読み取ることができたのではないかな。

◇コップサインが自分の考えをもつことにとどまってしまう、互いの意見を交流するときに活用されていなかった。コップサインの使い方によっては、「〇〇さんは、青から黄に変えたけどなぜですか。」などという子ども同士の伝え合いも期待できる。



(3) 振り返る活動の工夫について

○「わたしは、（音読の仕方）のように読みたいです。理由は、（主人公の気持ちや様子）だからです。」という振り返りの観点を示したことで、とまどうことなくそれぞれの考えをノートに記述していた。

- 「どんなふうを読むか」「どんな気持ちで読むか」という自分の振り返りを説明してから音読発表していたので、個人の振り返りを全員で共有することができた。
 - コップサインの3種類の色から、それぞれ代表を出して音読したことで、多様な読みがあることに気付けた。
 - 本時の終末に自分が考えた読み方で音読したことで、最初の音読との変化が分かり、それぞれが学びを実感できた。
- △振り返りで、「理由は（本文の記述）とかいてあるからです。」に留まっている子どもが数名いた。本文を根拠にしながらも考えを自分の言葉で書けるように指導していく。

(4) 単元を通じた児童の変容と課題

音読を活動の中心に置くことで、「この時のちいちゃんの気持ちってどんなだろう」「地の文でも、こわい様子が伝わるように読みたい」などと、課題意識をもって学習を進めてきた。主人公や登場人物と気持ちを同化させ、音読の仕方もどんどんと上達し、ノートに記述、発言の回数も増えていった。単元の最後の音読発表会では、招待した家族から大きな拍手をもらって、達成感をもつことができた。最後の振り返りでは、「もうぜったいに戦争はおこってほしくない。ちいちゃんのことにはわすれないよ。」と、自分の考え方を構築することができた。

友だちとの伝え合い場面での練り上げが教師主導になってしまうところがあるので、話し合いのスキルを高めたり、互いに話し合いたくなる課題設定などを工夫して、伝え合い学び合う集団をめざしていきたい。

<指導者より>

- 子どもたちは集中して学習していた。たくさんの実践を積み重ねた成果である。
- 音読については、読み方を自分なりに考えて読むことができればよい。単元をとおして指導要領の目指す指導ができていた。
- 音読発表会を行うことにより、単元を貫くめあてをもつことができた。授業で考えた周囲の状況や気持ちを音読に生かすことができる。

